

令和8年 第13回総務経済常任委員会会議録

令和8年9月10日 議員控室

○事件

(1) 所管事務調査

① (株) 青年舎の現状について (農林課)

(2) 協議事項

(3) その他

○出席委員 (7名)

委員長 牧 野 仁 君
黒 島 竹 満 君
三 澤 公 雄 君
横 田 喜世志 君

水 野 博 美 君
宮 本 雅 晴 君
赤 井 睦 美 君

○欠席委員 (1名)

副委員長 安 藤 辰 行 君

○出席委員外議員 (6名)

斎 藤 實 君
倉 地 清 子 君
小 西 雄 一 君

寺 田 広 樹 君
関 口 正 博 君
議長 大久保 建 一 君

○出席説明員 (6名)

農林課長 加 藤 貴 久 君
株式会社青年舎社長 吉 田 邦 夫 氏
青年舎職員 福 嶋 正 氏

農林課長補佐 南 川 隆 雄 君
青年舎職員 舟 田 進 一 氏
青年舎職員 井 上 知 隆 氏

○出席事務局職員

事務局長 野 口 義 人 君
議事係長 千 代 貴 大 君

事務局次長 藤 原 悟 史 君

◎ 開会・委員長挨拶

○委員長（牧野 仁君） それでは、始めたいと思います。総務経済常委員会、委員長挨拶。青年舎社長さん、役員の方、今日はよろしく願いいたします。お忙しいところお越しいただき、ありがとうございます。

◎ 事件

【青年舎職員入室】

○委員長（牧野 仁君） 事前にですね、前回の常任委員会で担当課から一応経営状況を今日報告を受けていますし、今日の報告第1号でも議場でも報告されましたので、今日はですね、皆さん今日お集りの中で意見交換を主体として進めたいと思います。今日はよろしく願いいたします。

それでは、令和7年度に向けて今回の決算について、私どもの委員会からいろいろ聞きたいことがあれば、何か審議に入りたいと思います。よろしく願いいたします。どうでしょう。

なければ私からちょっとよろしいですか。まあ、バランスシートで言えば貸借対照表からスタートします。一番下の資産の部なんですけれども、その他の繰延資産あるじゃないですか。3,611万3,980円。これは、費用として今後とも落としていくのがあるのかどうか、ちょっと確認したんですけど、よろしいですか。

○青年舎（吉田邦夫氏） 委員長、青年舎吉田。

○委員長（牧野 仁君） 吉田社長。

○青年舎（吉田邦夫氏） 議会のほうにも、そういう質問が出たというふうに聞いていました。それで、繰り延べしたんですが。座って説明を。

○委員長（牧野 仁君） はい、どうぞ座って。

○青年舎（吉田邦夫氏） その他が繰り延べでしたんですが、これはですね、北電ネットワークさんとの間で結んで売電の部分で、発電所の連携の工事費の部分が比較が大きいものですから、これを繰延資産にするようにというふうに、会計事務所のほうとお話し合いがとれてまして、これを繰延資産として計上させてもらいました。

○委員長（牧野 仁君） ああ、なるほどね。去年から始まってたんだ。

○青年舎（吉田邦夫氏） はい。

○委員長（牧野 仁君） わかりました。

それとですね、損益計算書。今回の決算の中に大変議員の間でも純利益8,793万円、大変すごい利益を出したというふうに大変喜ばしいことだと思います。

その中で、多額補填収入の部分、担当課から説明を受けたんですけども、これは国の政策でずっとこの補填収入は見込めるということで、認識してよろしいでしょうか。価格補填収入で6,042万2千円。まあ、バターとかチーズの加工をどんな。

○青年舎（吉田邦夫氏） 委員長、青年舎吉田。

○委員長（牧野 仁君） 吉田社長。

○青年舎（吉田邦夫氏） 生乳の補給金のほかにいろんなバターだとか、先ほどおっしゃるとおり、そういうものはこれからもずっと続くものと考えます。

○委員長（牧野 仁君） はい、分かりました。

あと、もう一点なんですけれども、営業外収益の中で受取家畜共済金、今回4千万という数字で出てます。また、その営業外費用の部分、生物死亡原価が1,276。これと照らし合わせると2,300万ぐらいちょっと違うなんか理由があるんですか。生物死亡原価と受取家畜共済金の保険金ですか、これが増えている。死亡した部分に対しては、入っている部分と解釈していいの。

（何か言う声あり）

○青年舎（吉田邦夫氏） 委員長、青年舎吉田。

○委員長（牧野 仁君） 吉田社長。

○青年舎（吉田邦夫氏） 保険金のほうで入ってくる、共済金で入ってくるほうが4千万くらいあって、死亡の原価のほうは1,200万円。

○委員長（牧野 仁君） はい、そうですね。

○青年舎（吉田邦夫氏） これが少ないっていう話ですか。

○委員長（牧野 仁君） いや、原価が1,200万で保険金は4千万消化されているのかな。そういう意識でいいのかな。

○青年舎（吉田邦夫氏） そういうことです。

○委員長（牧野 仁君） ああ、そんなに違うもんなんだ。

○青年舎（吉田邦夫氏） 掛け金なんでもかけれるので、かけ方によって。

○委員長（牧野 仁君） ああ、そう。かけ方によって保証が違うの。

○青年舎（吉田邦夫氏） 違いますね。

（何か言う声あり）

○委員（三澤公雄君） 受け止め方で誤解を受けるかもしれない。

○委員長（牧野 仁君） わかりました。そのついでに言うと、共済。保険をかけるとなると、相当保険料を払ってるんでしょうね。

○青年舎（吉田邦夫氏） 払ってます。

○委員長（牧野 仁君） それはいくらぐらい費用としてみてるんですか。ここでは載っていないと思うんですけど、詳細はないんだよね。

○委員（横田喜世志君） 難しいね。

○青年舎（吉田邦夫氏） 委員長、青年舎吉田。

○委員長（牧野 仁君） 吉田社長。

○青年舎（吉田邦夫氏） 損益計算書のほうの共済掛金というところがありまして、ここに家畜共済金をかけ、総額で3,400万円ほど。この損益計算書の中ではちょっと見れない数字なんで。

○委員長（牧野 仁君） はいはい。そうですね。3,400万。

○青年舎（吉田邦夫氏） はい。家畜の全体ですんで、死亡保険金から普通の診療のやつも全部含めて。

○委員長（牧野 仁君） ああ、年間そのくらいかかるんですか。

○青年舎（吉田邦夫氏） はい。

○委員長（牧野 仁君） えー。それであれば、関連ですね、事業計画が本年度8年度に向けて、ウの欄で脂質抑制利益率向上、その中で、獣医師採用に家畜診療所を設置して、自社内診療により、家畜共済の掛金診療代の削減を図ると書いてありますけれども、これはそういった観点から利益削減。ちょっとそのへん詳しく説明。

○青年舎（吉田邦夫氏） 委員長、青年舎吉田。

○委員長（牧野 仁君） 吉田社長。

○青年舎（吉田邦夫氏） はい。全くそのとおりで、うち今まで全部牛が具合悪くなったら、獣医さん呼んで診てもらって、それがいくらくらって診療費も払ってやってたんですが、結果的に診てもらいたくてもすぐ来るわけでもなく空いたりするもんだったので、できることだったら、自分らのところに獣医さんを抱えるのが一番だというのはどこも理想だっていうのはわかってるんで、なかなかそういうことができる牧場って渡島管内でないんですよね。

○委員長（牧野 仁君） あまり聞かないですね。

○青年舎（吉田邦夫氏） いや、ないんです。皆無で僕らも今回それをかなりあたってあちこちで勉強してきました。

○委員長（牧野 仁君） ああ、そうですか。

○青年舎（吉田邦夫氏） それで、たまたま八雲町在住の獣医さんがちょっと前に早期退職して、体調悪かったんですけど、すっかり良くなってるんですけど、それで手伝ってもらえないかって話を2年くらい前からずっと声をかけてありまして、やっとそれが実を結んで、この春からきちっと来てもらえることになって。

それで、会社として執行役員というかたちで来ていただきまして、今本当に申し訳ない安い賃金でしかお支払いできていないんですが、今これで共済金の下がる、掛け金の下がるんで、その中の部分について、かみ合い額ということ賃金も増やしてあげて、先生にぜひこういうふうやってやりたいんだって話をしたらわかってもらえて、それで、うちのほうにもう朝からびっちり入って。

それで、変異なヨンペンという手術だとか、そういう手術は、うちの牧場で先生が切ってくれますので、もう初期診断の諸診療ができるようなかたちになって、共催費はかなり削減できるというふうになって考えています。

○委員長（牧野 仁君） やっぱりそうなんですか。はい、わかりました。

○青年舎職員 共済金なんだけど、去年より事故が減って渡島地方内だったら減って、来年中にはもう共済の掛け金が減るっていうようなシステムではないんです。

3年間の平均があって、それで今年と比べてどうなのっていうことなので、過去3年間は結構高い率だったので、今年は少しくらい良くなってもすぐまた一気に減るっていうような契約ではないです。

○委員長（牧野 仁君） そういうリスクがあるんですね。

○委員（三澤公雄君） 今、簡易な手術とかってお話しありましたが、なんていうか、手術するとかっていったら特に許可とかはいらないんですか。人間だとそんなイメージで考えちゃうんですけど。

○委員（横田喜世志君） 獣医師の免許の範囲。

○青年舎（吉田邦夫氏） 委員長、青年舎吉田。

○委員長（牧野 仁君） 吉田社長。

○青年舎（吉田邦夫氏） 獣医師なんで問題はないんですけど、うちの場合に家畜診療所というのを家畜を入れて保健所にお届けでして診療所を作ったんですよ。それで、診療器具だとかいろんな機材とかを全部揃えましたし、まあ、少しお金がかかったんですけど。それで、うちの牧場の中のもの安易なものだとか、あと、薬関係も買いやすくなりましたし、そういう利点は多々あります。

あと、先生と長期的に先生まだ 61 なんて、まだまだ 9 年や 10 年働いてもらいたいと思っているんですが、なるだけ先生が一生懸命やっている手技を見せてもらって、先生のとこになる人間を少し育ててほしいと。先生のそばにいて指示くれば先生のお手伝いができるような職員を育ててほしいということで理解してもらってますし、それに、今後先生がもし何かあるときには、お約束として、まあ、口約束ですけど、後継者は必ず見つけてからいなくなってくださいという話はしていますので。

○委員長（牧野 仁君） 安心しますよね、そういう人といいますと。周りの作業員もやっぱり。

○青年舎（吉田邦夫氏） はい。本人も臨床で行った今でもう地位のほう高い地位にいたんですけど、なかなか臨床できなくて、スポットで先生のとこにポンっ行って一回だけ見て、次の先生のとこに渡しちゃうということなんで、なかなか臨床科に行ってやって、自分の初めから最後まで見たいという思いがあって、それは今のとこをれっきとして、本当に喜んでやっております。

○委員長（牧野 仁君） いや、とても今のお話を聞いて良いと思います。やはり獣医さんは、いろんなことで治療を専念してるんで、まあ、初期の段階で治せるものを治してもらって、働いてる人と連携も取れるだろうし、コミュニケーションだって。すごく聞いてて、これはいい案件だなと思ってます。

○委員（三澤公雄君） まあ、看板でエデュケーションファームってなっているのが新しい医療関係の勉強も専門的ではないかもしれませんが、そういった知識を身につけられるってことですよね。

○委員長（牧野 仁君） 私からはこれでいいです。

○委員外議員（倉地清子君） 質問良いでしょうか。

○委員長（牧野 仁君） 倉地さん、どうぞ。

○委員外議員（倉地清子君） 各事業の推進方法っていう中の私は、エの和牛受精卵移植事業について、ちょっと詳しくっていうか、素人なので教えてほしいんですけど。

先ほどの関連で、獣医師さんを常駐っていうか、診療所に処置できるということは、この獣医さんが移植事業を行うものなんですか。

○青年舎（吉田邦夫氏） 委員長、青年舎吉田。

○委員長（牧野 仁君） 吉田社長。

○青年舎（吉田邦夫氏） 手技そのものは、今のところ人工授精師さんを今までの付き合いもありますし、ずっと雇って厳格に診てもらってますので、やっている状態です。

いずれは、先生は獣医さんはもちろん人工授精も含めてできますし、授精師の資格も当然網羅して持ってますので、やることはできるんですが、今、事業そのものは、個人がいращやるので会社がやるんですけど、うちの牧場に見てみると、分娩して子牛を産まないで牛乳が出ないというのは当然のことで、その時のお腹がいっぱいあるんで、そのお腹に自分のところに残すいい血統のゲノムって言って遺伝子の検査もやってますので、血統のいいものだけのメスを産ますように仕組んで、それ以外のあまり乳が出ないような母牛であれば言い方は悪いんですけど子を取らないで、その子はその代わり、肉牛ができるような受精卵、和牛のためだとかETになって受精卵じゃなくても種だけを入れたりとかっていうふうになって、それで少しでも個体販売の収益を上げたいなというふうな事業に取り組んでますけど、今始めても産むまでには10カ月かかります。

それで、また産んでから素牛として出荷するためには、またそこから10カ月かかるんで、約2年かかって初めて販売ができるところまでかかるんで、実は昨年からの話になってまして、昨年途中から実は始めていて、今年はもうせっせとつけて、来年度令和9年度中に産まれて出荷ができるという牛が大体70頭くらい確保はできていて、歩留まりはまだ産んでみないとわかりませんが、一応ついているものとして70頭ぐらいいて、令和8年度で今50頭の出荷予定で、30頭が和牛で20頭がF1と言ってホルスタインのやつに単純に黒毛の種付けたと。

それで、来年は70と30で100を出荷できる予定で収益を上げるという事業をやっています。ただ、さっき言った受精卵の移植の方法にも本当の繁殖の雌牛から受精卵として取るものの他に受精卵の卵胞として取ってきて、体外受精でつけて作る受精卵を作れるので、そんな手法だとかいろんな手技があって、何が一番得策で何が一番できるのかということは今うちの井上がメインで肉牛をやらせているんですが、そういうところにいろんな選択肢を持ちながら、今研究しているところです。

○委員長（牧野 仁君） 何か聞きたいことはありませんか。

○委員外議員（倉地清子君） もう一回いいですか。

○委員長（牧野 仁君） 倉地さん。

○委員外議員（倉地清子君） 今の話の続きになっちゃいますけど、言い方は悪いけどできない牛さんには肉牛になってもらうみたいな感じでしたもんね。それって、どうやって分かるんですか。

○青年舎（吉田邦夫氏） 委員長、青年舎吉田。

○委員長（牧野 仁君） 吉田社長。

○青年舎（吉田邦夫氏） データが全部とれているので。

○委員外議員（倉地清子君） あ、コンピューター。

○青年舎（吉田邦夫氏） 乳牛から何から全部データベースといって日々データが重なってくるんで、もう繁殖が悪いとか一回でつかないとか。

あと、うちロボット搾乳ですので、本当のこと言って淘汰を早くやって効率よくやればいいけど、なかなかそこまで踏み込めないのが現実で、例えば、おっぱいの形が悪いだけで機械に付きにくくなると、それだけで滞在時間が増えると効率が下がるので、本当は形のいい

おっぱいを持った牛だけをそろえれば効率は上がるってのがわかるけど、なかなかそこまでは見切れないのがだいたい。

それでも今ゲノムの検査を始めていますので、遺伝子レベルで乳量が出るとか出ないとか、どうのこうのっていうのをやって選抜して、その牛に対してはメス種って言ってメスしか産まれない種をつけてしっかり統血ってとれたりも乳牛が出なくてあまり乳脂肪が高くないような牛に対しては、肉牛のほうを産ませると、そういう展開です。

○議長（大久保建一君） 聞いていい。

○委員長（牧野 仁君） 大久保さん。

○議長（大久保建一君） さっきの診療所の話なんですけど、診療所ってことは、もしかしたら青年舎以外のところで緊急に診てほしいっていうのか、外来診療みたいなものとかっていうことも可能で、そこで収入上がるのも考えられるということなんですか。

○青年舎（吉田邦夫氏） 委員長、青年舎吉田。

○委員長（牧野 仁君） 吉田社長。

○青年舎（吉田邦夫氏） 獣医ですので、医療の精神でそういう診療を求められるものは拒めないというなんか大義名分があるらしいんですけど、うちの場合にいただいた自分が採用した者に対しては、そういうふうになるのかっていうのを一応家畜衛生保健所のほうと協議して、そこまではしなくていいという。

○議長（大久保建一君） 場外のもので違う農家さんの頼まれたら診療していいのかっていう。

○青年舎（吉田邦夫氏） いや、しない予定です。

○議長（大久保建一君） しない。

○青年舎（吉田邦夫氏） それは、共済組合になりますので。うちはうちの場合のものっていう。

○議長（大久保建一君） わかりました。

○委員（横田喜世志君） 契約すればいいのに。契約すればできるよな。

○青年舎（吉田邦夫氏） それでもお金を取る仕組みだとか、なんとか全部決めなきゃなくなるからかえってめんどくさくなる。

○委員長（牧野 仁君） あと、事業計画推進のほうでオーダーあんですけど、新規就農者確保担い手育成。これやはり毎年大変努力されていると思うんですけども、今のところは どうでしょう。展望も含めて、今後どういうように考えていらっしゃる。

○青年舎（吉田邦夫氏） うちの会社の設備を持っている中に、新規就農者のためのトレーニング施設があるということもあって、新規就農者に対してそのように頑張っていますが、なかなか集まらないのが現状です。

まず、新就農者を集める1位の、まずはじめとすると、八雲町には担い手センターという新規就農者を集めるところが八雲町と農協さんと普及センターと今、寺子屋といって農業関係者の団体と、この4つの党で組織している担い手センターというような部分。そこがまず第一の入り口になるのがルールであって、青年舎からいきなり新規就農者の選定というふうにはならないんですよ。

その中で酪農の部門だとか、まあ、畑もそうですが、そんな中でこういうところで事前にこういうところで勉強したりとかなんとかってなったときに、うちの牧場の出番になって、うちでトレーニングするのは全然よくて、逆にウェルカムでトレーニングの人を迎えたいと思う。

ただ、今、実際のところ、新規就農者がどれくらいくらい希望があるのかというこの情勢の悪い中で、初めてやるのは大変で、僕らが青年舎としてずっと言い続けているのは、新規就農には2パターンがあって、新規営農就農と新規雇用就農と農業やることには変わりがないんですが、親方で自分でやるのか、はたまた会社員、サラリーマンとなりながらも農業を取るのか、やり方は2つある。僕らは新規雇用就農についてはなんぼでも応援できますが、新規営農就農については、僕らの手が離れると。

トレーニングとしては、ちょっとしたものも最適だと思っておけますが、なかなか最後にここで抜けるこういう物件があるから行かないのかというところまでは、なかなか僕は。○委員長（牧野 仁君） ちょっとハードルが高いですね。

○青年舎（吉田邦夫氏） 全員そこに合格するか、しないかの見極めというのがかなり難しく、今までも八雲町で新規就農の方はたくさん受け入れてきましたが、なかなか実が結ばないというのが実際のところ、その見極めが実際は難しいと思いました。僕もこの業界に入って、いろんな人がいて本当に大丈夫なのかっていう人からいろんな人も新規就農だと言われてしまえば、一応な対応をせざるを得ないのかなとか、かなり難しいことがあります。

それで、今まで新規就農のことだけで言えば、実際にすぐ働きたいと思ってくる人っていう数はそんなに多くないですよ。

ただ、研修だとかこれから将来の目を思えば、うちのほうでインターンシップだとか、学生の見学だとか、そういうところにもすごい力を入れてて、今この9月にも高校の修学旅行のやつが今ちょっと話がありまして、修学旅行で2クラスが入ってくる予定でいます。

それと、今八雲小学校からもあれがありまして、食育教育の一環で牛乳の生産の話で来たいという話があってそれが来るという。今月の30日に埼玉県立栗橋北彩高等学校というところらしいんですが、そこから今60名が来たいということで、旅行会社を通じてオファーがあります。一応、今詰めている最中でまだ決定はしてないんですけど、今これを詰めている最中です。

あと、酪農大学の学生だとかのインターンシップだとかも今月1週間入る予定があったりというのと、農協の女性部の親子見学ツアーをしたり、八雲小学校の3年生のさっき言いました2クラスが来たりとかっていうふうに、なんかそういう今後未来を見据えたというか、ちょっと先の見すぎかもしれませんが、そういうところにも向けて見学させる機会をですね、どんどん今増やしているところでございます。

○委員長（牧野 仁君） ありがとうございます。大変。

○委員外議員（斎藤 實君） そういうの有料なんですか。

○青年舎（吉田邦夫氏） 学生とかはね、さすがに取れないです。と思っています。ただ、修学旅行でツアーになってくるやつは、今どうするか決めたいなと実は思ってます。

○委員長（牧野 仁君） 年間どのぐらい来るんですか。そういう見学、視察に。

○青年舎（吉田邦夫氏） 令和7年度で26回視察を受けまして、延べ284名。

○委員長（牧野 仁君） そんなに。

○青年舎（吉田邦夫氏） 学校教育関係が 8 件、128。農協ヘルパー関係が 3 件で 64。行政関係の視察が 6 件で 38。企業案件が 7 件で 32。あと、小牧市民の会は 63 人かな。それと個人で来たのが 1 件 2 人という、全部で 26 件 284 名受けてます。

○委員長（牧野 仁君） 結構来るんですね。

○青年舎（吉田邦夫氏） 来ますね。

○委員（横田喜世志君） 今の企業関係 7 回とかっていう視察があったみたいですけど、何を目的に来ているかっていうのを教えてもらっていいですか。

○青年舎（吉田邦夫氏） 連れていてくる人が北海道乳業さんなんです。

○委員長（牧野 仁君） そういうのがあるんですね。

○青年舎（吉田邦夫氏） 北海道乳業さんに僕ら 100%出荷していますので、北海道乳業さんが営業で、こういう生産現場がありますよというのを。ちなみに有料で来ています。

○議長（大久保健一君） 国有産の販売先でねえの。

○青年舎（吉田邦夫氏） これからのとことか、バイヤーさんだとか、その次のことしか。

○委員長（牧野 仁君） まあ、今後とも八雲町の PR お願いいたします。

あと、ほかには。意見交換なんで。

○委員（水野博美君） 委員長、水野。

○委員長（牧野 仁君） 水野委員。

○委員（水野博美君） 私も何もないですよ。全然、健全経営でなんか投資もとってもしっかりされてて、もうすぐこうやって借金もなくなるんじゃないかなって感謝してます。

それで、私全然あんまりよくわからないんですけど、乳業を維持していくためにもなるためにも、きっと乳牛の観察とか管理とかとっても大事だと思うんですけども、動物ですから昼夜問わず対応していかなければならないことが多いと思うんですけども、外国人の実習生の方、雇用されたって聞きましたけれども、従業員が今足りているのかとか、これから確保していくための方針とか、どのように従業員確保されていくのかなというところをちょっとお聞かせください。

○青年舎（吉田邦夫氏） 委員長、青年舎吉田。

○委員長（牧野 仁君） 吉田社長。

○青年舎（吉田邦夫氏） 今現在、従業員全部で 28 名。28 名のうち、役員が 5 人いますので、役員 5 人のうち、また町長も非常勤になっていますし、結果的に、獣医さんもいるので、自分は常勤ですけど現場に出るわけではないので、まあ、それをどう考えるかは別ですが、あと、事務方が 2、生産現場に 16 人います。

それで、育成牧場の指定管理を受けてますので、そこに 3 います。それと、パートを 1 名の派遣社員 1 名受けてますので、それで全部で 28 名役員設けています。

それで、このうち外国人現在 6 名、特定技能で 6 名使っています。それで、6 名なんですけど、今この 28 名に対して人数が多いのか少ないのかということを見て、自分の中で金融機関と話しているたびに必ず言われるのは、人数が多いという話をなぜか毎回されます。必ずされますね。

それで、どこも人数が集めきれなくて少なくて無理してやってるっていう多分状態だと思うんですが、うちは今4週6休の8時間勤務です。それで、さっき心配された分娩だとか、使用管理思えば24時間使わなきゃならないんですが、夜の5時になると職員は帰ります。無人です。それで、カメラとかいっぱい付いてますけど、朝の5時半に出勤ですので、それまでの間に分娩があったものとかは翌日の処理で。

ただ、今ホルスタインだったのこういう話をしましたけど、今、黒毛を扱うようになったらちょっとそうも言っていられなくて、一頭の取りこぼしができないんですよ。それが今、いろいろ危惧しているところなので、どうやっていくのか。

ただ、人数的なものとしては、自分の中ではちょっと多いと思っていまして、先日町長と副町長ともう1人役員と3人に同じような規模の大きな牧場でうちより成績が良くて、なおかつ人数が少ないことを見に行かして、どういう返事だったかというのを受けていた最中だったんですが、これから外国人をどうしても雇用していかなくちゃなくなっていた時に、あそこの牧場若いんですよ。平均年齢26歳の牧場で。

○委員長（牧野 仁君） そんなに若いの。

○青年舎（吉田邦夫氏） 社長も30いくつですよ。乳量もうちよりも。うち、だいたい一頭当たり39キロとか40キロ弱出てるんですけど、そこは44キロ出てます。ロボット8台でうちと同じ規模で。というところでうちが6,900、7千トンを目指してるのに、8千トン出てます。同じ。まあ、ちょっと若干パワーの多いのはあったりします。

あと、使用管理が違っていろんなところが違って、ただいろんな意見しているうちに、機械化が大きく進んでいるところがあって、やり方も大きく違うことだと。外国人も若干はいますけど、やっぱり日本人のバリバリ働く、責任を持ってできる人がやっぱり数多くいて、若い人でも十分やってるっていうことがあって、うちも今何年目かあえて年齢はちょっと平均年齢分かりませんが、かなり高い。自分と同じ系統が4、5人いますので、間違いなく年齢って高いのでこれが少し下がってくればと思って。

下がるというのは、新しい人を入れるんじゃないで、これが抜けても今の人員でやりきれくらいになるのが多分理想なのかなとは思ってます。ちょっと単純的な労務については、やっぱり外国人の手を借りて、ちゃんと理解できて指示が出せる人間を日本人を育ててくというのがやっぱりそうなのかなとは思ってますね。

でも、人手は絶えず足りないというのがなんか口癖になっちゃって、そういうふうになるんですけど、やり方次第ではまだまだそうではないというふうに自分的には思ってます。

もう日本人だって厚生してるとこって限られていて、うちの牧場は、八雲町内で3番目の牧場なんですけど、1番も2番も当然外国人入ってますし。

○委員長（牧野 仁君） そうですよ。いいですか。

○委員（水野博美君） はい。

○委員外議員（寺田広樹君） 委員長、寺田。

○委員長（牧野 仁君） 寺田委員。

○委員外議員（寺田広樹君） あと、どこの部門で人手足りないんですかね。欲しいっていう部門ですね。全体ですか。しいて言うなら肉牛。

○青年舎職員 特殊な機械を乗るので、そのオペレーター部門になるかな。トラクターにいろんな作業機付けて、まあ、運転できるだけじゃダメなんですよ。

運転プラス技術と多少の整備能力とか、そういった面と、あとは牛をよく観察できる人。ばーっと歩いてあの子変だなって気付けるような人材っていうのをちょっと育てていきたいとな、とは思ってます。

○委員外議員（寺田広樹君） 委員長、寺田。

○委員長（牧野 仁君） 寺田委員。

○委員外議員（寺田広樹君） やっぱ大型免許必須ですか。

○青年舎職員 はい。

○委員外議員（寺田広樹君） あー、そうですか。

○青年舎職員 牽引は必要ですね、大特。

○委員外議員（倉地清子君） 委員長、倉地。

○委員長（牧野 仁君） 倉地委員。

○委員外議員（倉地清子君） 今の管理になりますけど、そういう人が必要であるなら、令和8年度の計画も和牛の販売もすごく目標が大きいんですけど、これって難しくなりますか。できそうなんですか。

○青年舎（吉田邦夫氏） やります。実は、営農を採用するにあたって、僕ら和牛のことが頭にあって。まだ和牛始めてないときに、前の前任の牧場が和牛でやってたんで、それでうち引っ張れたらなと思ってて、いい話がたまたまあったんで、彼を迎えるにあたってそういうもくろみがあって迎えていますので、当然和牛は少し。

それで、和牛の売り方についても、農家の中に生まれてすぐ濡れ子ですぐ売ってしまう方法と、あと10カ月育てて素牛となって、次の肥育農家のほうに出荷する方法だとかいろんなやつあって、彼はいろんなことを勉強してきてますので、先日、僕に知恵をつけたのは、50日目ぐらいでスモールという危ない段階を終わった段階のスモールという小さい牛で売れば、それから約2か月弱なので、普通10カ月育てるとなると8カ月分の餌代と価格的にも良い牛を作ったとして、10カ月で90万とか100万ぐらいで売ったらすげえなっていう話に片やなってるのに、片やスモールで売って、50日ぐらいで売って40万、50万ぐらいになるのあるんで、それ思ったらこの8カ月分の餌代と金額とか見合ったらどうなんでしょうって言う話になってくる。

それで、結果的に長く飼ってたほうがうちにいる時間が頭数が増えるので、早い回転で回したら僕とそれと牛舎すぐ行くんで、それも手だなと思いながら、どうしようか、こうしようかって話を今相談しているところです。

ただ、この辺で僕らが見に行く市場には、そういうお客さんがまだそんなについてないんで、自分らだけではどうしようもならないので、同じ和牛、大きいところでやってるところに声をかけて、同じようなそういうスモールを出せるような八雲から何頭でも毎回行くよという、市場がちゃんと出来上がるとバイヤーさんがつくんで、そういうふうにもやっていかなきゃなとかって思っ。そうすると、浅知恵ですけどいろんなことを勉強してます。

○委員外議員（寺田広樹君） 委員長、寺田。

○委員長（牧野 仁君） 寺田委員。

○委員外議員（寺田広樹君） 直近5年間で肉牛の価格って上がってるんですか。下がってるんですか。

○青年舎職員 乱高下してます。

○委員外議員（寺田広樹君） そうですか。

○委員（横田喜世志君） ついていくの大変だ。

○委員長（牧野 仁君） あと、社長。今の実績ちょっと見てみたら売電ですよ。毎年7,800あって、8年の計画が下がってるんです。7,300万これはなんか500万下がる。

○青年舎（吉田邦夫氏） 7,800出来すぎなんですよ。

○委員長（牧野 仁君） えっ、出来すぎ。

○青年舎（吉田邦夫氏） 稼働率90何%でかなり僕らも注意して、僕他のことできないですけど、売電初めから携わってたんで、毎日機械に行って毎日数字を見て、何付けて何やってってかなり注意してやって、それでも機械止まるんですよ。何かの拍子で。そんなのやって、一回機会が止まる。

今も実は、売電の発電機の設備のコンテナなんですけど、中に入ってるファンで中の温度を下げるような機械があるんですけど、そのファンが1つの止まってまして、そのファンがもう2カ月くらい入ってきてないんですよ。

○委員長（牧野 仁君） 物が入ってこない。

○青年舎（吉田邦夫氏） 外国製なので、ドイツからなんですけど、船便で出たらしいんですけど、とかという話になっていて、エンジンの主要部品が1つ何か問題起きたときに、うちの形の発電機って日本国内に3台か4台しかないんで、だからその部品もそんなに多く持っていないみたいなんで、なんかあった時にぐっと下がる分を申し訳ないですけど、うちよけて少し少なめに見てくれっていうふうにして予算は計上してる。

○委員長（牧野 仁君） ああ、なるほど、わかりました。

○青年舎（吉田邦夫氏） 壊れると、もうしばらく。

○委員長（牧野 仁君） しばらく2、3カ月。

○青年舎（吉田邦夫氏） とかってなるのが怖くて。

○委員長（牧野 仁君） 怖いですね、それは。

○委員（横田喜世志君） 代替え国産品ないの。

○青年舎（吉田邦夫氏） いや、国産品でもなんでもいいんですよ。あれば、本当に。機械がポンと付け替えるわけでもないし、今から取り替えるったら莫大な金額だし。

○委員（水野博美君） 準備しといてください。

○青年舎（吉田邦夫氏） 一般的にバイオ発電やっている方が、一般的に一回大丈夫じゃないところが多かったんで、100キロワットとか150キロワットとかっていう小さい発電機が一般的なんです。

そうすると、1つの充電エンジンのことが付いていて、その後ろのところに発電機がコジェネレータって発電するというものがいっぱいあるんですけど、うちらみたく250キロワットで初めからドイツ製の機械とかってなると、やっぱりなかなかものはないんですね。

まあ、ハイデータ処理がこれは法人として最良のものだったと思うんですけど、今のところは問題なく動いている。まあ、多々ことは起きません。今朝もクーラント噴いて、2時間、3時間止めましたけど。2時間、3時間止まると何万円なんで。

○委員長（牧野 仁君） まあ、いろいろ通して 40 分ぐらいお話しされましたけれども、皆さん意見は、これでよろしいですか。

○青年舎職員 いいですか。

○委員長（牧野 仁君） はい、どうぞ。

○青年舎職員 今月うちの会社で、僕はちょっとでっかい優秀なロボット 8 台入ってるところを視察してきました。それで、あれほどの成績は、やっぱり全道のトップクラスで、一回は北海道で一番成績のいいという状況だったんですけども。

視察に行ってもやっぱり感じるのは、いつも青年舎を見てるから感じるんだと思うんですけど、やっぱり構内の舗装の仕方とか、牛舎と牛舎の間とか、いろんなバンカーとかの通路とかいうのを比べたときに、やっぱり青年舎はどこの視察の人が来てもやっぱり安心して見せられる牧場だなというふうには感じました。これも皆さんのおかげだと思っています。

○委員長（牧野 仁君） いえいえ、とんでもないです。

○青年舎職員 先ほど和牛の受精卵の話があったんですけど、やっぱり当初から、黒毛の受精卵がやりたいという思惑があったんですけども、社長とその話をしたときに誰が見るのよっていうのが体現膠着のその懸念で、それで井上君が入ってくれて移植に踏み切ってだんだん頭数も増やしたんですけども。

それで、この春から獣医さんが入ってくれて、ゆくゆくは、青年舎の中で採卵までやりたいなというふうに、なんていうかな。夢が膨らんでいくというか、だんだんその夢が現実になってきたなと思うんで、もう少し長い目で。

○青年舎（吉田邦夫氏） 採卵をしたいって言うことは、黒毛の雌牛を自分らで買うということです。卵をとるための牛を。

つまり黒毛の雌牛を 20 や 30 頭飼わないとならないんで、ちょっと牛舎の形状を考えたら全部違います。

○議長（大久保建一君） 黒毛予算になっちゃうんでない。

○青年舎（吉田邦夫氏） いや、黒毛はあくまでこれらは生乳生産の牛乳を作る牛のためのお腹がある、お腹の副産物として、黒肉ができるというふうにされています。

○委員外議員（倉地清子君） すごい。

○委員（水野博美君） 二刀流じゃない。

○委員長（牧野 仁君） じゃあ、本当今日はお忙しいところ、本当に今日有意義な意見交換になりました。参加してくれて、ありがとうございます。

社長さんをはじめ、役員の方々、今後とも活躍を祈ってますので、応援しますので、これからよろしく願いいたします。どうもありがとうございました。

○青年舎（吉田邦夫氏） まだまだ伸びしろは、あるんだということだね。だから、もう何年かして。

○青年舎職員 社長によく言われるんですけど、無理な計画は首を絞めるといって。

○青年舎（吉田邦夫氏） かえって売電じゃないけど、固く固くね、収入は少なくして、支出は多くいうっていうのがあるから、それでも、あれよりはかからないと思うから。

○委員外議員（倉地清子君） 素晴らしい。

○委員長（牧野 仁君） 素晴らしいね。じゃあ、どうもありがとうございました。

【青年舎職員退室】

◎協議事項

○委員長（牧野 仁君） その他で私からの意見なんですけれども、今回一般質問の中にありました、避難所の件の一般質問を皆さん聞いていたと思いますけど、一回総務委員会でその場所行ってはどうかなと思って。

例えば、熊石なんかは結構上り坂があるじゃない。今、現状どうなっているか。そういった観点。あと、時間あれば黒岩とか、そういうところも来月か再来月か。どうでしょうか。いいですか。

（「はい」という声あり）

○委員長（牧野 仁君） はい、分かりました。

○委員（三澤公雄君） 本当に今なら熊石、ほとんどが草ぼうぼうでさ。しっかりした階段のあるところでさえ、横に侵入するぐらい草刈りしてないし、使える状態ではないよねっていうのは感じはしますよね。

○委員長（牧野 仁君） じゃあ、そういう計画を立てますので。

○議長（大久保健一君） 鎌持って行きましょう。

○委員長（牧野 仁君） ありがとうございます。

○委員（宮本雅晴君） 直営連れていく。

○委員（水野博美君） 人員足りないんじゃない。

○委員長（牧野 仁君） それでは、今日はこれで常任委員会終わります。どうもありがとうございました。長い間、ご苦勞様でした。

〔閉会 午後2時30分〕